

## 銀行破綻と企業倒産 拓銀破綻のケース・スタディ

内閣府 堀 雅博

金融仲介に係る標準的理論に基づけば、メインバンクの破綻は取引企業の資金調達効率を低下させ、当該企業のパフォーマンスに好ましからざる影響を与える。取引銀行の破綻を契機とする流動性不足などにより取引企業が経営難・倒産に至る状況は、その究極ケースとして想定されるものと言えよう。

昨年度の春季大会において、報告者は、「銀行取引関係の経済的価値」という観点から、北海道拓殖銀行破綻の事例研究を行い、拓銀破綻時において、拓銀取引先企業株価の相対的下落、同取引先の借入難、同取引先における資金調達コストの上昇、同取引先企業の収益の低迷、等は生じていなかったと論じた。本年の報告は、その拡張版に当たる。

昨年度の分析は、財務データの入手可能性に制約されたため、公開企業を始めとする大型企業の分析に止まった面がある。金融機関の情報生産機能の、未公開・中小企業資金調達における重要性に鑑み、本年は、企業の大枠についての情報のみをもちいつつ、可能な限り中小企業に焦点を宛てた分析を試みる。

分析の対象とするのは、東京商工リサーチ発行の『1996年度版北海道信用録』に収録された2万社弱の道内・未公開企業である。分析では、当該2万社のデータを活用しつつ、企業の基本情報に基づいた倒産予測モデルを推定し、拓銀との取引関係の有無が個別企業の倒産確率に有意な結果を与えているか否かを検証する。

マクロ係数や2000年度版の『中小企業白書』等を見る限り、拓銀破綻後において北海道地域の倒産が（他地域との比較で）激増したという事実は観察されていない。本報告では、こうしたマクロ的観察をミクロ的に再検証するとともに、倒産の激増を回避しえた要因（例えば、信用保証制度の拡充、公的金融機関の役割、北洋銀行他への円滑な引継ぎ）等について、定量的に評価を試みることにしたい。

（参考文献）

堀雅博・高橋吾行（2001）、「銀行取引関係の経済的価値 北海道拓殖銀行破綻のケース・スタディ」、ESRI Discussion Paper Series No.4, 内閣府・経済社会総合研究所。  
中小企業庁（2000）、「金融システム不安・信用収縮と中小企業」、『中小企業白書』第二部第一章、大蔵省印刷局。  
東京商工リサーチ（1996）『東商信用録、北海道版 1996』。